

## 前回の合同委員会で頂いた主なご意見

- ◆一般国民向け、専門家向け等、使い手に応じて複数以上の地図を作成すべき。
- ◆地震動予測地図をいきなり掲載せず、導入部分を入れるべき。
- ◆安全地図にならないようにすべき。
- ◆作成する地図は多すぎないようにすべき。
- ◆予測地図の検証を行うべき。

# 今後の地震動予測地図作成の方針

地図を一般国民向けと専門家向けに分けて作成



## 地震動予測地図

### 一般国民向け

- ◆いきなり地図を載せるのではなく、導入部分を設ける。
- ◆安全地図にならないよう配慮。
- ◆地図が過多にならないように。
- ◆分かり易い丁寧な解説をもうける。

### 専門家向け

- ◆分かり易い丁寧な解説を設ける。
- ◆基本的な枠組みは従来通り。
- ◆地震動ハザード評価の課題解決のための検討を継続。

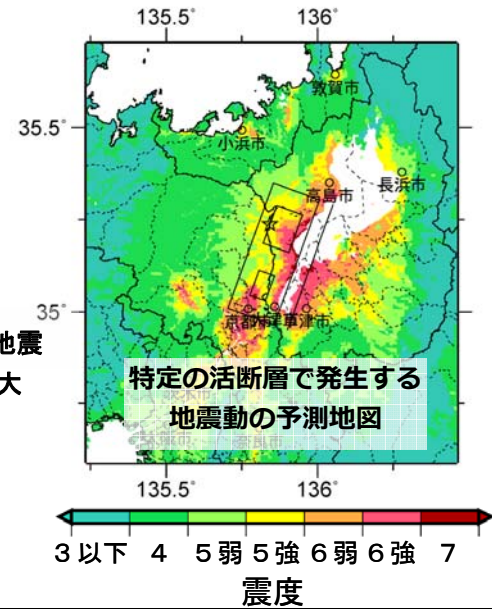
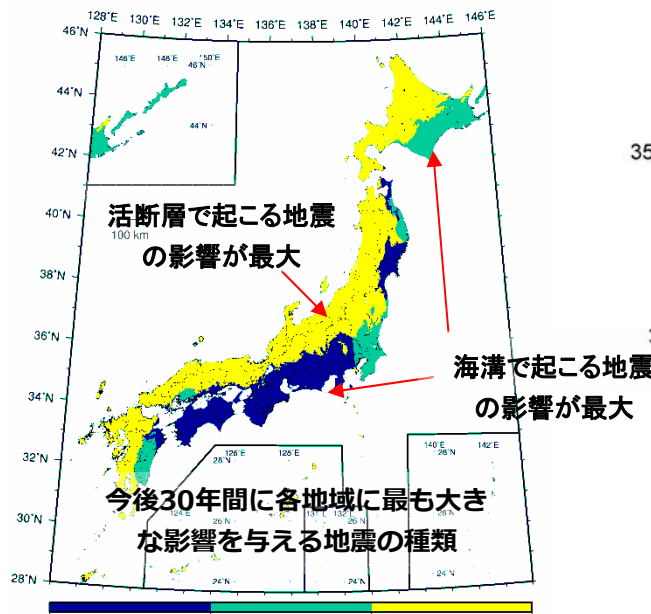
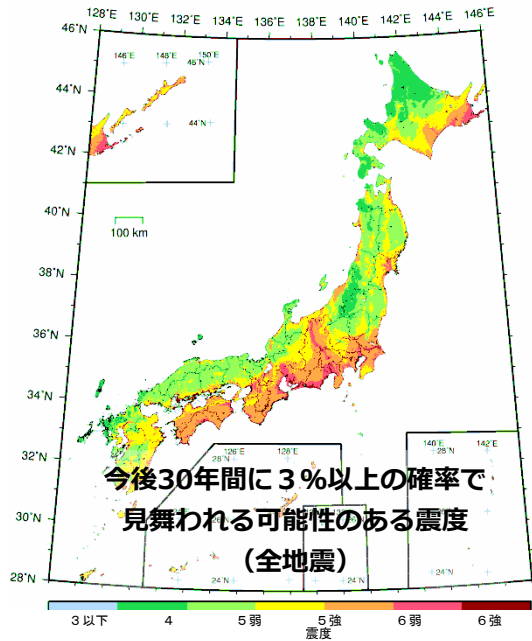
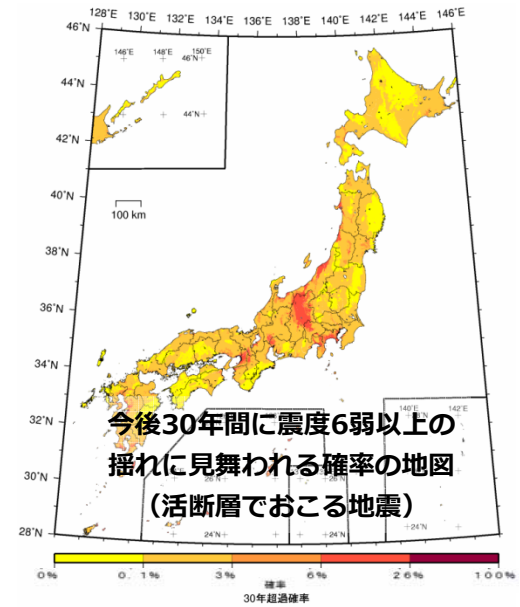
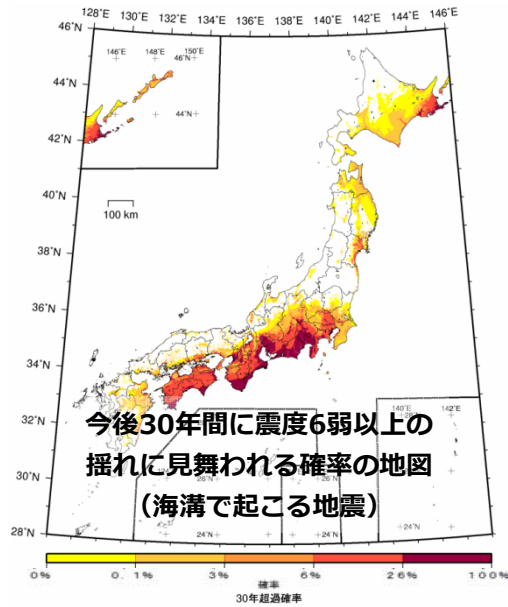
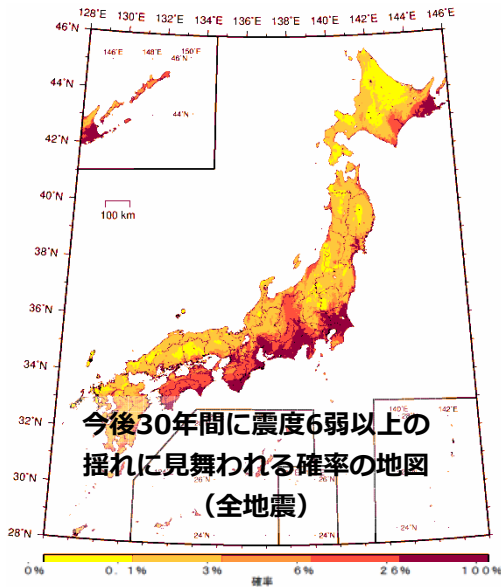
# 本日ご意見を頂きたい項目

## 一般国民向けの地図について



- ◆ どのような要素を盛り込むべきか。  
(どのように盛り込むか、表現方法は次回以降に・・・)
- ◆ 導入部分はどの程度入れるか。
- ◆ 地震対策に関する部分はどの程度入れるか。
- ◆ 従来の確率論的地図のうち、どれを載せるか。  
(色々な種類があるが、地図が多すぎるという指摘を受け、最低限を選択したい)
- ◆ 新たな表現の確率論的予測地図の案。  
(「こういう地図なら分かり易い」というような具体的な案があればお願いします)

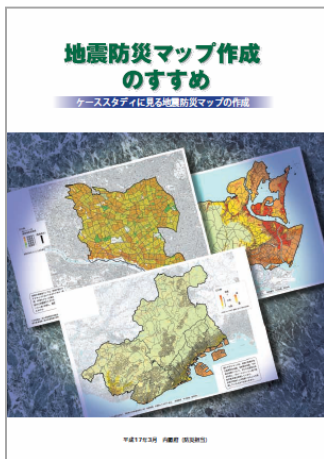
# 従来の地震動予測地図の例



# 一般向け地震動予測地図の案 1 (解説を豊富にして理解を助ける)

## 内閣府作成の地震防災マップを例に

- 最終的に揺れやすさマップを見せるまでに、地震発生メカニズムなどの基礎的な導入や、地域で想定する地震、マップの作成方法と一連の流れになった上で揺れやすさマップを見せている。



「地震防災マップ作成のすすめ」  
内閣府(防災担当) 平成17年

**世田谷区 地震防災マップ**

①揺れやすさマップ  
②地域の危険度マップ

このマップの活用方法

② 想定される地震

③ このマップができるまで

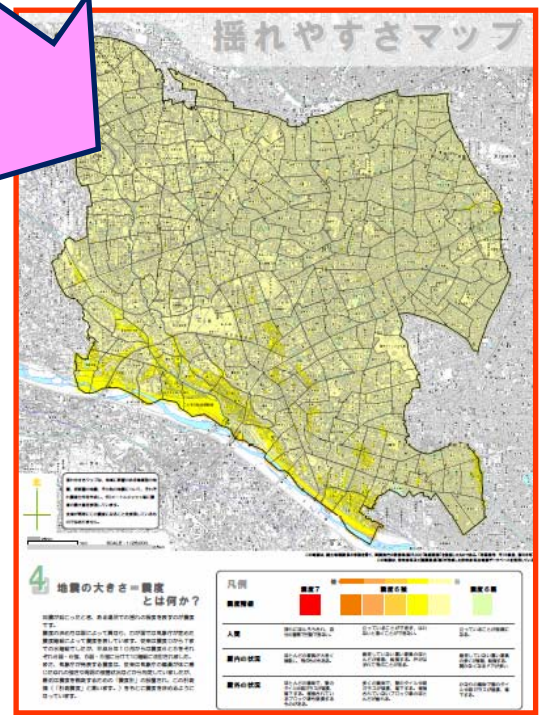
④ 地震の大きさと震度とは何か?

①「地震はなぜ起こるのか」  
→地震発生メカニズムを知ってもらい、地震に対する知識や意識の向上

②「想定される地震」  
→自分の地域でどのような地震発生の可能性があるか知ってもらい、自分の地域のリスクを知り、身近な問題意識として認識してもらう。

③「このマップができるまで」  
→どのような手法でマップが作成されているか知ってもらうことにより、科学的にどのような根拠をもとに作成されているものか認識してもらう。

揺れやすさマップ (震度)

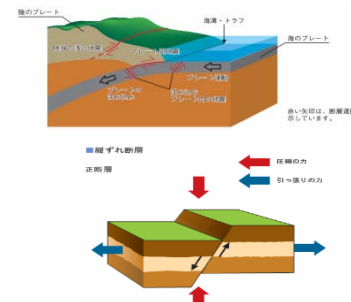
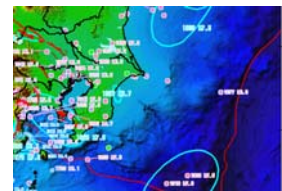
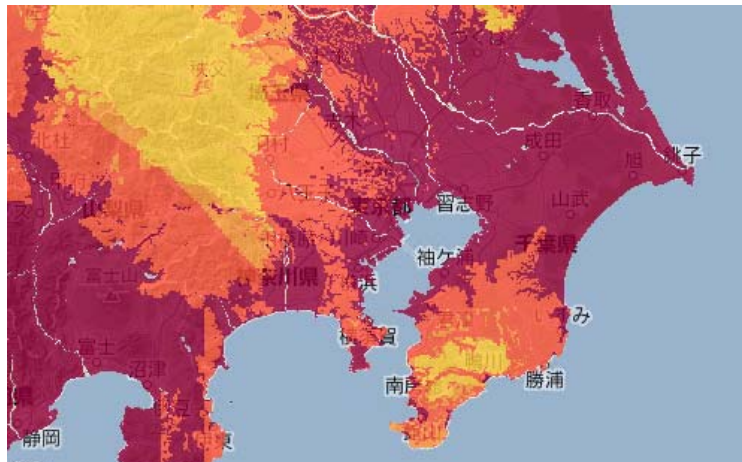
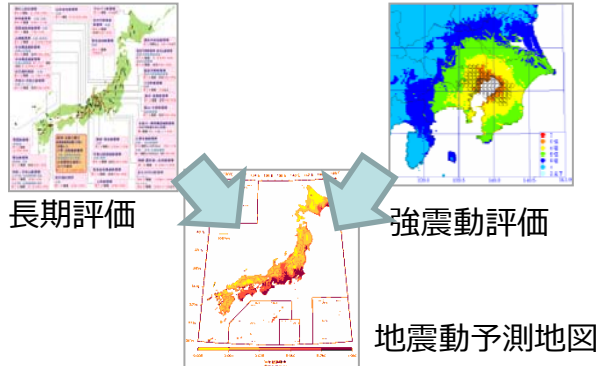




# 一般向け地震動予測地図の案 1 (解説を豊富にして理解を助ける)

このような地図を参考に・・・

- 最終的なアウトプットである地震動予測地図と導入部分とセットで考える。
- 分厚い冊子になっては一般の人にとっては浸透しづらいので、簡単なパンフレット程度の内容とする。
- 全国版も必要だが、一般の人の目に触れるものについては、地域をある程度限定したものをメインにした方が身近な問題として感じられるのではないかな。

<p>①地震発生メカニズムの解説</p> 	<p>②地域で発生する地震の解説</p>  <ul style="list-style-type: none"><li>・過去に発生した地震の被害やその写真なども掲載</li></ul>	<p>④地震動予測地図本体</p>  <p>J-SHISより</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自分の住んでいる地域がどこかわかるよう、都市の名前や鉄道など、極力目印となるものを記載するなど工夫する</li></ul> <p>⑤一般家庭でできる防災対策の例示など</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・耐震補強</li><li>・家具の固定 など</li></ul>
<p>③地震動予測地図が作成されるしくみ</p>  <p>長期評価 → 強震動評価 → 地震動予測地図</p>		

# 一般向け地震動予測地図の案2 (一枚で総合的にハザード・リスクを知る)

一枚で総合的にハザード・リスクを知ることができる資料を地域毎に作成することも考えられる。

